

司法面接支援室通信

2014年度 北大開催の司法面接研修についてのご案内

北大司法面接研修は以下の日程での開催を予定しております。詳細情報につきましては、プロジェクトホームページ (<http://child.let.hokudai.ac.jp/>) をご参照ください。

- 6月16日(月), 17日(火) 参加者応募締切 5月7日(水)
- 10月20日(月), 21日(火) 詳細は未定です
- 11月10日(月), 11日(火) 詳細は未定です

5月・6月の行事予定

- 5月14日 東京地方検察庁
「子どもの供述特性を踏まえた聴取技法研修：自由報告と構造」
- 5月21日 警察大学校「被害児童に対する面接技法」
- 5月26日 千葉地方検察庁
「子どもの供述特性を踏まえた聴取技法研修：多職種連携アプローチ」
- 5月27-28日 埼玉県児童相談所 司法面接 (NICHD ガイドライン) 研修
- 5月30日 札幌法と心理学研究会 (北海道大学)
- 6月16-17日 北海道大学 司法面接 6月研修
- 6月28-29日 日本認知心理学会第12回大会 (仙台国際センター)

3月・4月の行事報告

- 3月1-2日 新学術領域・法と人間科学 領域合宿 (慶応義塾大学)
- 3月2日 新学術領域・法と人間科学主催 模擬裁判 (慶応義塾大学)
- 3月5日 JST「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域 フォローアップ報告会
- 3月6-9日 The 2014 annual conference of the American Psychology-Law Society (New Orleans)
- 3月10日 New Orleans Child Advocacy Center 訪問
- 3月17日 仙台家庭裁判所研修
「子どもの意向・心情の把握・考慮について考えるー司法面接の手法からー」
- 3月18-19日 山口県児童相談所 司法面接 (NICHD ガイドライン) 研修
- 3月21-23日 日本発達心理学会第25回大会 (京都大学)
- 3月24日 大阪家庭裁判所研修「子どもへの面接法 - 司法面接法の取組 -」
- 4月25日 埼玉県地方検察庁 「子どもの供述特性を踏まえた聴取技法研修」



司法と福祉



このコーナーでは、新学術領域「法と人間科学」の司法と福祉班の先生方に司法面接に関連する様々なテーマでご執筆いただきます。

3. 司法面接を支える基礎的データの収集をめざして

私は、新学術領域（法と人間科学）における公募研究班として、司法面接に関する基礎的研究を行う機会をいただきました。

日本でも、本プロジェクト等で研修を終えられた実務家の方たちによって司法面接が導入されていますが、国内での司法面接の基礎的研究は少なく、欧米で用いられている司法面接の手法が国内でどの程度有効であるかについては不明確な点も多く残されています。現在、私は実務において面接の困難さが訴えられやすい6歳前後の子どもを対象に、面接者の質問と子どもの応答との関係性や、子どもの語りの特徴について、実際に子どもたちへ司法面接に則った面接を行い検討しています。ここでは、予備調査の結果の一部をご紹介します。

予備調査では、小学2年生の女兒（7歳6カ月）を対象に、NICHD プロトコルに則った面接法を用いて事実（DVDの内容）についての聴き取りを行いました。面接内容を分析した結果、NICHD プロトコルで推奨されるオープン質問の中でも、特にそれから質問（「他には？」「それから」）や返事（「うん」「そう」）において、子どもが多く語っていたことがわかりました。

一方、全体的な頻度は少ないものの、Yes/No 質問に対しては、はい（Yes）反応が多く、イエステンデンシーがみられました。予備調査の結果を踏まえ、今後はより多くの子どもたちを対象に、子どもの発話の量的な側面（どんな時に子どもがたくさん語るのか等）だけでなく、子どもがどのような内容を語ったのか（正しい情報なのか誤った情報なのか等）といった質的な側面への検討も行いたいと考えています。

本研究は、研修で呼んでいただいた実務家の方から「小学校低学年くらいの子どもの話を聴くのが難しい」という話を聞かせていただいたことがきっかけです。子どもの語りについて実務家の方から教えていただくことは非常に多く、また研究のヒントをいただくことも多いと感じています。今後も実務家の方々との連携を大切に、研究を進めていきたいと思っております。

田中晶子（四天王寺大学 人文社会学部）

専門分野：認知心理学

**研究テーマ：司法面接、目撃記憶、
子どもの記憶・言葉**



研究通信

このコーナーでは、支援室の室員や仲研究員の院生を中心に、司法面接に関連する学術研究を紹介します。

証言と証拠：児童性虐待の記憶に関する科学的ケース研究

Testimony and evidence: A scientific case study of memory for child sexual abuse.

Bidrose, S. & Goodman, G. S. 2000. *Applied Cognitive Psychology*, 14, 197–213

少数のケースを扱う事例研究は、子どもの目撃記憶についての洞察を提供するものの、一般には客観的な記録が欠如しているために子どもの証言の正確さの評価には限界があるといわれます。そこで、事例をより科学的に検討しようと試みた研究が本論文です。「ここ 25 年の間に学術雑誌 *Applied Cognitive Psychology* に掲載された論文の中で印象に残る論文の一つ」と編者に賞され (Pezdek, 2011), 2011 年に再度同誌に掲載されました。ここでは 4 名の事例を取りあげ、その証言と客観的な証拠とを照らし合わせることで、子どもの証言の正確さを検討しています。

【方法】

手続き 売春組織に従事させられていた 4 名の女兒 (8, 13, 14, 15 歳) について、警察が行った 4 つの面接と 7 つの口供書が検討対象となりました。それらは、複数人によって以下の 70 カテゴリに分類されました。

- [性的内容] 43 カテゴリ
 - ・ 性的行為 : 28
 - ・ 男性加害者抜き的女兒のみによる性的行為 : 15
- [強制的活動] 15 カテゴリ
 - ・ 組織リーダーのジョンに係わるもの : 12
 - ・ その他 : 3
- [売春行為への準備活動] 8 カテゴリ
- [その他] 4 カテゴリ

また、女兒の証言の正確性を検討するための客観的指標として、警察が押収した音声テープ 77 本と写真 623 枚が同様に分類されました。

【結果】

記述統計

全申立て数の内、証拠によって支持されたものは 194 行為 (78.9%) でした。その内、性的行為の申立て (160 行為) の中 85.6%, 強制行為 (35 行為) の中 42.9%, 準備行為 (40 行為) の中 82.5%, その他 (10 行為) の中 90% が証拠によって支持されていました。申立てを支持した証拠の内訳は、42.4% が写真と音声テープの両方, 22.9% が写真のみ, 34.7% が音声テープのみでした。支持された申立ては、警察による面接 (100 行為) の中 79%, 口供書 (192 行為) の中 82.4% でした (図参照)。

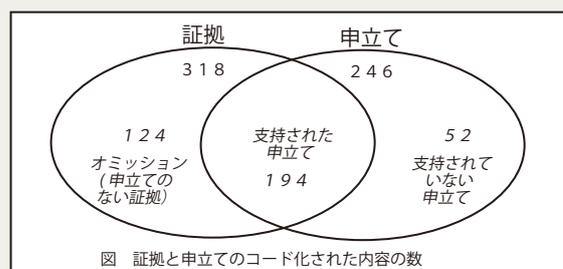


図 証拠と申立てのコード化された内容の数

申立てのない証拠：オMISSIONエラー

証拠が押収された 318 行為の内、申立てがなされていたのは 194 行為 (61%) でした。残り 124 行為は、少女達による申立てがなかったこととなります。行為別に見ると、性的行為 (217 行為) の中 36.9%, 強制行為 (22 行為) の中 31.8%, 準備行為 (60 行為) の中 45%, その他 (19 行為) の中 52.6% は申立てがありませんでした。

表 女兒達の申し立ての完全性と支持

	マンディ	ポーラ	アン	サラ
公判時の年齢	8	13	14	15
支持された申し立て	62.5%	74.5%	85.6%	77.8%
支持されなかった申し立て	37.5%	25.5%	14.4%	22.2%
支持された性的行為の申し立て	80.0%	83.8%	95.1%	75.5%
支持されなかった性的行為の申し立て	20.0%	16.2%	4.9%	24.5%
申立のない、行為の証拠	41.4%	34.5%	34.6%	46.2%
申立のない、性的行為の証拠	20.0%	29.5%	33.3%	46.7%

表は、各証人ごとの申立てられた内容数の割合を示しています。この表から、低年齢の子 (マンディ) ほど申立てが証拠によって支持されておらず、申立て内容が乏しいことがわかります。しかし、それは事件に関わった期間が短かったせいかもしれません、単純に年齢による結果とはいえません。また、押収された証拠の数も小さい子の場合には少なかった、ということも支持率が低い理由として考えられます。

【考察】

すべての行為について写真や音声などの証拠が残されているとはいえません。にもかかわらず、85.6% の性的行為の申立てが証拠によって裏付けられたという事実は、子どもたちの申立てが驚くほど正確性の高いものである、ということを示しているといえるでしょう。

【論文紹介者】

田鍋佳子 (たなべ よしこ)

日本学術振興会 特別研究員 (北海道大学)

研究テーマ：司法面接と親子の会話の比較